

# 風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。

だから、神の力強い御手の下で自分を低くしなさい。そうすれば、かの時には高めていただけます。思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。

1 ペトロ 4:12~5: 7

世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。

わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。ヨハネによる福音書17: :6、11

## 【説教要旨】

復活日と聖霊降臨日の間にあって、両者をはっきりと結びつけて重大な日である昇天日の礼拝を木曜日にいたしました。昇天日も大切なものです。

「天に昇り、神の右に座したもう」という昇天の出来事、すなわち「天に昇り」とは、イエスさまが地上における時間、空間の制限を超えて、あらゆる時、時代、場所においていましたもうということであり、「神の右に座す」とはあらゆる力がイ

イエス・キリストに与えられたということです。イエス・キリストがすべてにおいて力をもって、私たちに支配したもうということです。「座す」とありますように現在形のこの表現は、使徒の時代の過去の出来事として昇天があるのではなく、現在の私たちのうちにも昇天の出来事があるということです。時代を超えてイエス・キリストは私たちと共にいて、私たちに支配されるのです。たとえ現実には神も仏もないというような世界であろうとイエス・キリストの支配が確固と貫かれているということです。このイエス・キリストの支配において、私たちの存在が確固たるものとしてあるということです。

復活の出来事で「そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて」ルカ24:45、とあるように「心の目を開かれて」私たちが現実の問題の重さに打ちのめされようとするとき神は、イエス・キリストは、「**心の目**」をもって神の支配を、イエス・キリストの支配をはっきりと見せてくださるのです。イエスの昇天後に人々は、「**大喜び**」でエルサレムに帰ったとあります。イエス・キリストは肉体的目で見えなくなった。しかし彼らは心の目で、神の支配が自分のうちに貫かれているということをはっきり知らされ、この支配の約束のうちに「大喜び」となったのです。神の、イエス・キリストの支配があるところ、それは「大喜び」となるのです。

「大喜び」ということは前に踏み出す力を与えてくれます。

「大喜びでエルサレムに帰る」とあります。イエスの十字架以降、エルサレムは彼らにとって決して居心地のよい場所というより危険な、恐れが多い場所でありました。にもかかわらず「大喜びでエルサレムに帰った」とありますように、恐れと闇が覆っているエルサレムに向かって歩みだす力はイエス・キリストが生きて私たちに支配したもうという絶対信頼から生まれてくるのです。自分が良い状況であるときだけ喜ぶのではなく、にもかかわらずという時、場所においても、なお喜びえるのです。

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そ

して、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。使徒言行録 1:8

お約束されたことは、いつ、いかなる状況にあっても私たちは強く神の証人として強く、雄々しく歩むことが許された世から選び出された選ばれた者なのです。

世の判断をもって、私たちは生きない。

こういうことを殿下に書こうとしましたのは、私が殿下以上のはるかにすぐれた保護のもとにヴィッテンベルクに参ることを殿下にご承知いただきたいとの思いからであります。私は殿下から保護をいただくつもりはありません。いや、殿下が私を守ってくださる以上に、私が殿下をお守りしようとしていると考えております。殿下が私を守ってくださるし、守るおつもりであられることを知っておりましても、私は参らないであります。こういう事柄に関しては、剣は知恵を与えてはくれませんし、助けにもならないのです。人間のあらゆる思い煩いや付け足しなど抜きで、神お一人がここでことを成就なさるのであります。ですから、最も信じているものがここでは最もよく守られているわけです。『イエス・キリストのみが私の守り、私の救いである』という信念に従うというルターの信仰の言葉です。イエス・キリストにおいて生かされている自分の命ということを考えながら、マルチン・ルターは、どんな状況になるか分からないし、また、自分の命がどういうことになるか分からないヴィッテンベルクの町に向かうのです。宗教改革の使命を果たすために、敢えて山を下りて行ったと言ってよいのです」と徳善牧師は、解説しています。「私が殿下以上のはるかにすぐれた保護のもとにヴィッテンベルクに参ることを殿下にご承知いただきたいとの思いからであります。」という言葉こそが、人の支配でなく、神の支配、イエス・キリストの支配のうちに私たちがあること、最も信じているものがここでは最もよく守られ、世から選び出された選ばれた者であり、神の証人です。思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。

# 牧師室の小窓からのぞいてみると



今、外国人が 400 万人を超えたと聞いた。日本は外国人なしでは回って行かない社会になっている。しかし、そういう現実がありながら、決して私たちは現実を見ていこうとはしていない。

声高に外国人排斥を、あるいは郷に入っては郷に従えと私たちの価値観を押し付けようとしている。聖書は、異邦人、外国人を保護することが基本である。そういう意味で私たちは大変に重い責任を負わされて宣教に励まなくてはいけない厳しい状況にあることをもっと、もっと自覚しなければならない時代をキリスト者として生きていかなければならない。



## 園長・瞑想？迷走記

### 4) 多(他)文化の中で

#### 時代の変化に対応



### ③) 伝えていく努力

きわめて、細かいコミュニケーションが必要となる。

言葉の理解・・・翻訳機がある。また、甘木教会でインドネシア語の日常に使用する言葉を掲示しているように、保育者が、ある程度の日常語を使用する。

保護者へのお知らせをその国の言葉にする。

日善幼稚園は、「園だより」、各種の「お知らせ」、入園式、卒園式の式次第を英語、日本語にしている。

「要は、保育者も幼児も保護者も、多文化間の異質性を相互に理解し、尊重すること、そして相互に個性を尊重し、援助しあう環境づくりを目指すことにより、・・・・多文化保育の最も重要な課題といえよう」(多文化保育論より 荻原元昭 学文社)

## 日毎の糧

聖書：神は聖なる宮にいます。みなしごの父となり／やもめの訴えを取り上げてくださる。神は孤独な人に身を寄せる家を与え／捕われ人を導き出して清い所に住ませてくださる。背く者は焼けつく地に住まねばならない。



詩編68:6～7

### ルターの言葉から



苦しみが神のみ心にかなうものであり、それによってキリストににせられてくるということを知っておれば十分です。

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

#### 本来の姿に

68篇は、エルサレム中心主義の「シオン神学」がある。シオン神学とは、「『シオン神学』とは、神ヤハウエがその『住まい』として選んだ聖なる都シオンにおいて反版宇宙的諸王を屈服させ、この民の永遠の『避けどころ』という思想である。」①

68:6 神は聖なる宮にいます。みなしごの父となり／やもめの訴えを取り上げてくださる。68:7 神は孤独な人に身を寄せる家を与え／捕われ人を導き出して清い所に住ませてくださる。背く者は焼けつく地に住まねばならない。とあるように元来は弱者への神の救いの御手の協調であり、弱者であったイスラエルの希望を与えるものであるが、これが選民思想へととなり、イスラエル中心の民族主義へと肥大化させ、他者を排除する。「社会的弱者の保護は、『奴隸の家』エジプトから解放された民イスラエルに定められた基本であった（出エジプト22:20-26、申命記24:14-22参照）。だが、民の外部に敵が想定されるとき、そうした視座はしばしば民族的情念にからめからめとられてしまう。」② 指摘のように、弱者はイスラエルであって、敵である他民族を神が排除するとなると選民思想の間違った解釈となって排他的ユダヤ民族主義へととなると月本氏はさらに指摘する。どこまでも「社会的弱者の保護」こそが聖書の基本であることを忘れてはいけない。

①②「詩編の思想と信仰Ⅲ」

月本照男 新教出版

祈り: 神よ。弱者の保護に目を向ける信仰をください。アーメン。

## 甘木通信

確かに、すべて生きる者として選ばれていれば、  
誰にも希望がある。コヘレト9：4



高校生時代、難病ネフローゼ症候群になった。そして、ステロイド治療が始まり、2年間、入退院を繰り返した。「病室の隅の椅子も枯れ木」という一句が今も思い出す2年間は、高校生にとってきつかった。病院で人の生き死にも見た。幸い神学校に入る時、ステロイド治療も終わった。

それからは大病もすることもなく来て、ブラジルにも渡り、ブラジルの地方の日系コロニアを長距離バスに乗って、周り、礼拝をしてきた。日本に帰国し、愛知、静岡、愛知、東京と仕事をし、引退した。

甘木教会囑託牧師として、2年目に大病をし、一年間、病気に振り回された。歳が歳だから死と言うことを感じていた。そんな日々の中で、絶望もすることもなく、楽しく、教会の人の助けをかりて教会の仕事が出来た。信仰に長く生かされたという経験もあって、生きていればこそ、コヘレト流というなら「確かに、すべて生きる者として選ばれていれば」ということになろう。「生きる者として選ばれていれば」とは生きているというよりも生かされているということではないだろうか。生かされていると感じるこの闘病の一年は、生かされることで、希望をもって一步を踏み出された。

やっと、CRP（体内の炎症指数）が2から0.09（正常値0.14以下）に下がった。試練の時だったがこれも希望の時だったと感じている。

**(甘木日記)土)**キリスト教講座、話は飛び、聖書の翻訳の話、日本人が作った讃美歌の話をお茶を飲みながら楽しんでいた。**日)**この頃、礼拝出席が少ない。午後から少ない人数にも関わらず幼稚園の関係の家族を迎えて20名で芝張りの交流をする。**月)**幼稚園は休みだが人が足りずに最後までいる。**火)**牧師先生は休みなので今日は幼稚園にいなくてはいけない。放っていたバラが開花。自然は。**水)**午後から大学病院に診察に行く。検査結果はよく。次は3カ月後になる。**木)**甘木にいくと久しぶりにiさんに会う。夜は昇天日礼拝。**金)**遠足。春園長会、みな頑張っている。

## おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）午後からのキリスト教講座の準備のために午前中に甘木教会に。週報他を印刷し、キリスト教講座を行う（旧約聖書の人物について学んでいる。ヤコブ、ヤコブの子たち）。終わり、日が落ちるまで草取り。疲れて風呂に行く力もない。家内は明日の集会の昼食の準備。久しぶりにブラジル料理フェジョンを作る。日）天気、快晴。礼拝出席は少ない。午後から

聖和幼稚園の卒園生迎える。「芝生張り第2弾」、20名が参加。その後、信徒さんがつるはしを使って堆肥作りの穴を掘ってくださる。今日も久留米まで送っていただく。風呂は沸かしたが、入らずに寝てします。月）遅く今日は休みだったが、幼稚園にいくと人が足らずに休みはなし。泣きぐずる子といっしょにいて見守るだけ。この子にも泣きぐずる理由はあるのだろうと



とされているとしばらくすると笑みを返してくれる。これも楽しい。夕刻より地区園長会。火）体調が十分でなく、少し休みながら、仕事を進めていく。募金のお礼状の準備。運営で色々悩んでしかたない。先を見て肯定的に進もう。募金者に応えるために5万を寄付。怪我をしていた運転手さんも復帰されて安堵。子どもらとサツマイモ苗植え、そんなことをしていると6時になる。職員には早く帰るように指示して帰園。その後、マッサージへ。6月の甘木教会のコンサートの準備で奏楽者と打ち合わせ。水）早く、幼稚園に行き、園児を迎える。庭は先生方が掃除をしてくれるので近所を掃除。寄付へのお礼状書き、午後から大学病院に行き、やっと体内の炎症示すCRPも正常値にもどった。そのため診察間隔も3カ月となった。ここまで来るのに1年かかった。幼稚園に帰り、職員会議出席、「6月園だより」原稿を作る。先、



先へとする。木）早朝から詩篇68篇の聖書解釈をする。松崎保育園で、サツマイモ、ジャガイモの植えつけを利用して子どもに話す。甘木教会、今日昼間は暑くて少しだけ草取り、芝へ水撒き、サツマイモの苗植え。日が長くなりいつの間にか19時、慌てて、昇天日礼拝を行う。礼拝が続けられることを感謝。バラの開花時期。ほっていたバラも花をつける。募金ニュース原稿と領収書作成完成。金）遠足。なかなか慣れない日本で、幼稚園に来ている子どもと一緒に弁当。泣きそうになる顔を見ながら、そうだよな。そうだねと。